

令和2年度 学校評価

徳島県立池田支援学校美馬分校

重点課題		重点目標	評価指標	活動計画	評価		学校関係者の意見	次年度に残された課題	
					活動計画の実施状況と評価指標の達成度	総合評価(評定)			
Ⅰ 生徒一人一人に応じた学習や生活する力の向上	・生徒一人一人のニーズに応じたキャリア教育の推進	各学年団・学習グループで連携して、生徒のニーズに応じた指導目標や指導方法を設定し、教員間で共有しながらキャリア教育を推進する。(高等部)	①日常生活全般において、生徒に身につけて欲しい行動目標や方法を各学年団の教員全員で考え、学習状況の共有と検討を行う。	①-1 各学年の教員全員で、生徒に身につけて欲しいポジティブな行動について目標を設定し、指導方法を共有する。 ①-2 身につけて欲しい行動目標を生徒に確認し、指導や支援を行う。 ①-3 学習状況を確認し、必要に応じて改善を加える。 ①-4 年度末に、生徒の行動の変化について確認する。	①-1 各学年団で目標設定し、指導方法の共有ができた。 ①-2 生徒の行動目標は、学年全体もしくは個別に示しながら、支援を進めることができた。 ①-3 教科担任・学級担任間で情報を共有しながら、状況に応じた支援方法を教員全体にも周知し、目標の再設定等を行った。 ①-4 年度末に学年団で、生徒の行動の変容(指示待ちだった生徒が自分で考えて準備片付けができるようになった等)について確認し、次年度への課題を協議した。	B	・「みまカフェ」や学校行事などで、自信を持って明るく活動する姿や表情を目にする機会があり、先生方の愛情にあふれた教育活動が行われていると感じる。目標も達成できているところも多く、総合評価がBをAにしても良いのではないかと感じる。 ・コロナ禍の状況の中、就業体験先や企業開拓など大変なご苦労があったと思うが、3年生全員が進路決定してよかった。	・今後も生徒や保護者のニーズに応じた進路に関する情報が提供できるよう情報収集するとともに、卒業後の生活の場や働く場がイメージできるように、見学会を引き続き実施したい。 ・本校のことを知った事業所から直接声をかけていただくこともあったので、引き続き本校の取組を多くの方に知っていただけるよう広報したい。	
			①進路選択の判断材料にするため、生徒対象のグループホーム見学と企業見学、保護者対象の施設見学を企画し、自宅以外での生活の場や職業生活のイメージを広げる。	①-1 生徒対象のグループホームの見学を2回以上、企業見学を1回以上実施する。 ①-2 保護者対象の施設見学を1回実施する。	①-1 生徒対象のグループホームの見学を3回、企業見学を1回実施した。卒業後の生活の場に見学したグループホームを選択した生徒もおり、施設見学が進路選択の一助となった。 ①-2 保護者対象の施設見学を1回実施した。				B
			②各施設の情報を生徒用・保護者用にまとめ、情報提供する。	② 県西部の福祉施設情報を収集し、家庭訪問・進路相談・職業学習の資料として活用できるようにする。	②県西部の福祉施設情報を資料としてまとめ、主に進路相談や職業学習において活用した。				
			③生徒の実態に合った進路先の選定と就業体験先の開拓を行う。	③ 保護者・本人・担任と協議しながら、就業体験先の選定を行うと共に、実習先の選択肢を広げるため、3社以上の新規就業体験先の開拓を行う。	③就業体験先を新規開拓し、新たに企業5社及びB型事業所1カ所において現場における実習を実施した。				A
Ⅱ 教員の専門性・資質・指導力の向上	・人権意識を育てる生徒指導の充実	自己肯定感を高める授業づくり(教育総務課)	①各作業学習グループの担当教員全員で、目標の設定、指導方法、評価等に関する検討会を年4回以上実施する。	①-1 生徒が設定した目標や、指導方法について、各作業グループの担当教員全員で共通理解を図る。 ①-2 各学習グループの担当教員全員で、学習状況等について、常に情報を共有する。	①-1 生徒が設定した目標や、指導方法、評価に関する検討会を、各作業学習グループ毎に4～6回実施した。 ①-2 作業学習終了後、各グループの担当教員全員で作業中の様子や学習状況等についての情報を共有した。	A	・自尊感情を育む教育活動はとても大切である。社会人である我々にも通じるところである。職場でも仕事の振り返りに取り入れたい。 ・生徒や先生方のアンケートなどは4段階にすればより評価しやすくなるのではないかと感じる。		
			②生徒自身が目標を立てたり、自己評価する時間を設定する。	②-1 生徒自身が目標を立てるためのヒントとなる資料を提示したり、助言をしたりする。 ②-2 生徒が評価しやすいう、評価表を工夫する。	②-1 ワークシートを準備し、生徒自身が目標を立てるための時間を設定した。 ②-2 生徒が評価しやすいう、評価欄に5段階評価の指標を示した。			B	
		自尊感情を育む教育活動の実践(教育総務課)	①生徒向け、教員向けの研修会を、それぞれ年1回以上行う。	①外部講師を招聘し、ポジティブな行動支援等に関する研修会を実施する。	①ポジティブな行動支援に関する研修会を、外部講師を招聘し、教員向けに1回、オンラインで生徒向けに2回実施した。	B			
			②教員アンケートにおいて、「日々の教育実践に生かすことができた」との回答を80%以上とする。	②研修会で学んだ後の取り組みについて、教員にアンケートを実施する。	②教員アンケートにおいて、全ての教員から「研修会で学んだことを日々の教育実践にいかすことができた」との回答を得ることができた。			A	
Ⅲ 家庭・地域・関係機関との連携・協働をととした学校づくり	・地域と連携した教育活動の推進	・地域や関係機関と連携し、生徒たちが地域を知り、地域との連携や協力についての学習を通して、生徒のキャリア発達を促し、地域で活躍できる力を育成する。(学校生活課)	①地域や関係機関の話を聞いたり、一緒に活動したり、地域のことについて学習し、調べ、まとめ、実践する学習機会を前後期に各3回以上設定する。	①-1 外部講師を招聘し、学習する機会を3回設定する。 ①-2 ホームルーム活動において地域のことについての調べ学習やまとめ学習を行う。 ①-3 年間の授業計画を作成し、担当する教員間で活動の目的と生徒に身につけたい力、活動の流れなどを確認し、見通しが持てるようにする。	①-1 外部講師を招聘し、美馬地域の歴史や文化財等について3回学習を行った。 ①-2 合同のホームルームで地域についての調べ学習を行い、実際に地域を歩いて学びを深めることができた。班ごとで訪問箇所を地図上に記入しながらまとめ学習をした。 ①-3 授業計画を教員間で確認し、活動の流れを共有しながら支援した。地域学習や話し合い活動において、生徒自身が地域において自分たちでできることを考えることができた。	B	・キャリアパスポートの取組は、生徒の変化が「見える化」されて、再確認できる仕組みが素晴らしい。 ・美馬市では、今年度より美馬市版キャリアパスポートのファイルを作成し、小中学校に配付している。		
			②生徒たちが地域との連携を意識することができるような教材を教員間で相談しながら考え、活用する。	②-1 教員間で確認しながら、キャリアパスポートの美馬分校版様式を作成する。 ②-2 ファイルを作成し、学習内容をまとめ確認ができるようにする。 ②-3 必要に応じて、キャリアパスポートの内容を確認しながら学習を進める。	②-1 試行として2年生8名においてキャリアパスポート美馬分校版を作成した。 ②-2 各様式(年度初め、前期・後期就業体験、進路相談)を作成し、学習内容の振り返りができるように工夫した。 ②-3 生徒が自身の課題を理解し、次のステップに向けた目標を立て、日々の学習活動への取り組みにつなげることができた。			B	